





### 3 ワークシート3

戦国三英傑 ワークシート3

～最も時代を動かした戦国三英傑は誰か？～

各グループの発表を聞いて、ワークシート2を読んで、自分が現段階で「最も時代を動かした」を考える戦国三英傑の順位付けをしよう。

1

2

3

選んだ理由を書こう（箇条書きでも構わない。人物・政策・戦いなど、根拠を明確にすること）

#### 4 ワークシート4

戦国三英傑 ワークシート4

～最も時代を動かした戦国三英傑は誰か？～

他のグループが調べた事柄をもとに，三英傑を比較しよう。

(1) 比較する視点・規準（人物・政策・戦など）

--

(2) 実際に比較してみよう

信長・・・

秀吉・・・

家康・・・

--

(3) 時代を動かしたと言える部分はどこか？

--

(4) 三英傑を順位付けしよう。理由や視点，規準を明確にしよう。

--

## 5 ワークシート5

### 戦国三英傑ワークシート 5

1 各グループの発表を聞き、メモを取ろう。また、その発表の評価もしよう。評価は次の三つの観点で、評価基準を参考につけること。

評価の観点・・・(1) 内容の分かりやすさ

A：とても分かりやすい B：分かりやすい C：難しい

(2) 話す速さや声の大きさ

A：とても聞きやすい B：聞き取りやすい C：聞き取りにくい

(3) 順位付けの理由の明確さ

A：明確で分かりやすい B：分かりやすい C：明確ではない

		評価
A 班	メモ	(1)
		(2)
		(3)
B 班	メモ	(1)
		(2)
		(3)
C 班	メモ	(1)
		(2)
		(3)

まとめの課題（パフォーマンス課題）

調査や発表を参考に、「最も時代を動かしたのは誰か」という観点で三英傑に個人の考えで順位をつけよう。

その際、どのような視点や規準で順位をつけたのかを記述し、その後「なぜそう考えたのか」という理由を記述すること。

順位付け	1	2	3
視点・規準	..... ..... .....		
理由	..... ..... ..... ..... ..... ..... ..... ..... .....		

この課題の評価規準は次の通りです。

レベル	問題解決
A	三英傑に順位付けをおこない、その理由を説明することができる。さらに、中世から近世についての歴史について言及できている。
B	三英傑に順位付けをおこない、その理由を説明することができる。
C	三英傑に順位付けをおこなったが、その理由の説明が不十分である。

振り返り：下記の質問について、次のように自己評価すること。

できた：A    ある程度できた：B    あまりできなかった：C    できなかった：D

1	自分の調査対象の人物について、充分調査はできたか。	
2	班の一員として、活動に貢献できたか。	
3	他の生徒の報告・発表の内容と自分の調査結果を統合して考え、終報告を作成することができたか。	

## 6 教員作成資料①（資料の現代語訳・一部抜粋）

### ある人物Aの紹介文1

・彼は中くらいの背丈で、華奢な体躯であり、髯は少なくはなはだ声は快調で、極度に戦を好み、軍事的修練にいそしみ、誉心に富み、正義において厳格であった。

幾つかのことで人情味と慈愛を示した。彼の睡眠(時間)は短く早朝に起床した。

食欲でなく、はなはだ決断を秘め、戦術には極めて老練で、非常に性急であり、激昂はするが、平素はそうでもなかった。

彼は自邸においてきわめて清潔であり、自己のあらゆることの指図に非常に良心的で、対談の際、遷延することや、だらだらした前置きを嫌い、ごく卑賤の者とも親しく話をした。

彼が格別愛好したのは著名な茶の湯の器、良馬、刀剣、鷹狩りであり、目前で(身分の)高い者も低い者も裸体で相撲をとらせることをはなはだ好んだ。

彼は少しく憂鬱な面影を有し、困難な企てに着手するに当ってはなはだ大胆不敵で、万事において人々は彼の言葉に服従した。

### ある人物Aの紹介文2

・彼は、神も仏も恐れぬ。あの世も信じていない。そして、非常に誇り高く、またおごり高ぶっている。自分の部下に対しては、どんな重要な役に就いている者に対しても常に居丈高だ。見下して、頭ごなしにものをいう。それなのに、部下たちはどんなに重い役に就いているものでもこの彼を恐れていた。

・琵琶湖の竹生島(ちくぶじま)に参詣したときのこと。遠路ということで、彼は長浜城に泊まるに違いないと考えた女房衆は桑実寺へお詣りに出かけたりして羽をのばしました。ところが彼はなんと当日に戻ってきてしまう。彼は女房衆の怠慢に激怒、縛り上げて即刻差し出すよう寺に命令します。女房衆は恐れおのいて寺の長老に助けを求め、長老は同情して慈悲を願いますが彼はそれを見てますます怒り、長老もろとも女房衆を成敗しました。

### ある人物Bの紹介文1

・昨日も〇〇様が工事をご覧になりました。工事をしている者たちに直接言葉をかけて下さいました。

・彼はいわば我々の父だった。我々は心から悲しんだ。伴天連を迫害し、その財産を没収したことを除けば、我々(商人たち)には何の害も加えなかった。それどころか我々をかばってくれて、誰も我々に侮辱を加えることを許さず、そのようなことをした日本人を厳罰に処した。

### ある人物Bの紹介文2

・優秀な武将で戦闘に熟練していたが、気品に欠けていた。身長が低く、醜悪な容貌の持ち主だった。片手には六本の指があった。眼がとび出ており、支那人のように鬚が少なかった。極度に淫蕩で、悪徳に汚れ、獣欲に耽溺していた。抜け目なき策略家であった。

彼はこの上ない恩知らずであり、自分に対する人々のあらゆる奉仕に目をつぶり、このようなことで最大の功績者を追放したり、恥辱をもって報いるのが常であった。

彼は尋常ならぬ野心家であり、その野望が諸悪の根源となって、彼を残酷で嫉妬深く不誠実な人物、欺瞞(ぎまん)者、虚言者、横着者たらしめた。

彼は自らの権力が順調に増していくにつれ、それとは比べ物にならぬほど多くの悪癖と意地悪さを加えていった。家臣のみならず外部の者に対しても極度に傲慢で、嫌われものでもあり、彼に対して憎悪の念を抱かぬ者はいないほどだった。

### ある人物Cの紹介文1

・いずれの地であったか、たいへんに遠い所で狩りをなさった。おりしも雪が降りだして、お供の者たちがびしょ濡れになるのを御覧になり、奥の戸を開けられて、「大変趣深い景色だな」とおっしゃって、自らもびしょ濡れになられた。行殿に到着されても。体にかかった雪を払おうともせず、「急いで粥を煮よ」と仰せになり、粥を煮させた。御自分で少し召し上がった後、残りはすべてお供の者へ与えられ、「これを食べて温まるように」と仰せになられたので、誰もが彼の思いやりの畏れ多さに、温かさを感じたという。

### ある人物Cの紹介文2

・（裏切り者に対して）高手小手に縛め、手かせ足かせをして、馬の頭の方を背に、尻の方を前になるように乗せ、首金をはめて馬の後輪に結びつけ、手かせ足かせを両側の鞍骨にからみつけて連れて行った。

この時念し原に女房子ども5人を磔にしてあるところを、引立てて通りかかってみせた。

（裏切り者に対して）辻に穴を掘って首板をはめ、十の指を切って目の前に並べ、足の大筋を切って生き埋めにして、竹鋸と鉄鋸をかたわらに添えて置いた。すると通りがかりの者どもが鋸を取り替え取り替えて首を引いたので、1日で殺してしまった。

## 7 教員作成資料② 三英傑調べ学習 三英傑の基本情報

### 織田信長

1534年5月12日～1582年6月2日

戦国期～織豊期の武将。父は信秀。幼名吉法師。1546年（天文15）元服。信秀没後、本家の清須（洲）・岩倉両織田家を滅ぼし尾張を統一。1560年（永禄3）桶狭間の戦いで今川義元を破り、1567年美濃斎藤氏を降ろして岐阜に居城を移す。この頃から天下統一を意識して「天下布武」の印章を用いた。翌年、足利義昭とともに上洛し、義昭を将軍に擁立したが、その政治行動を牽制、ほどなく両者は不和となった。義昭に呼応する近江浅井・越前朝倉両氏をはじめ、比叡山延暦寺僧徒、甲斐武田氏、一向一揆などの包囲をうけて苦戦したが、1573年（天正元）義昭を京都から追放して室町幕府を滅ぼした。1575年長篠の戦いで武田勝頼に大勝し、同年越前の一向一揆を鎮圧。翌年近江に安土城を築いて移った。1580年石山本願寺を攻め降ろし、畿内を平定。1582年春甲斐に遠征して武田氏を滅ぼし、続いて中国・四国制圧を期して上洛中、本能寺で明智光秀の謀反にあい自害した（本能寺の変）。

### 豊臣秀吉

1537年2月6日～1598年8月18日

織豊期の天下を統一した武将。尾張国愛智郡中村生まれ。百姓弥右衛門の子。母はなか（天瑞院）。尾張を出、松下之綱に仕えた後、織田信長に仕える。はじめ木下藤吉郎。信長入京後は京都の民政にあたり、1573年（天正元）北近江の長浜城主となる。この頃から羽柴姓を用い、1577年10月からは中国攻めに従事。1582年6月本能寺の変に接し毛利輝元と急ぎ和睦して、山崎の戦いで明智光秀を倒す。1583年4月、柴田勝家を賤ヶ岳の戦いで破って信長の後継者の地位を固め、大坂城を本拠とした。1584年、小牧・長久手の戦いをへて徳川家康を臣従させ、1585年関白、翌年太政大臣となり、豊臣姓を受けた。四国・九州に続き、1590年、関東・奥羽を服属させ、全国統一を完成。1592年（文禄元）からは「征明」を意図して朝鮮に出兵（文禄・慶長の役）したが、朝鮮水軍の抵抗などに苦戦するなか、1598年（慶長3）8月死去。秀吉は、ほぼ全国に行った太閤検地と刀狩によって兵農分離を完成させ、近世社会の基礎を築いた。また、九州攻めの後、パテレン追放令を出しキリスト教の布教を禁じたが、ポルトガルとの貿易は継続したので徹底しなかった。

